

日本学校メンタルヘルス学会第15回大会

3月、東京

大会長インタビュー

東京学芸大学教職大学院

小林 正幸教授



日本学校メンタルヘルス

学会第15回大会が来月3月

10、11日、東京都渋谷区

国立オリンピック記念青少年

総合センターで開催され

る。テーマは「学校の居心

地のよさを求めて」東日本

大震災から学んだこと」。

大会長の小林正幸・東京学

芸大学教職大学院教授は

「第15回大会が開かれるの

は東日本大震災が起こった

その1年後の記念日。今大

会では①大震災から学んだ

こと②学校の居心地のよさ

を考える③学校と教師の関

係を学び直す、の3つの流

れを作りたい」と話す。

初日の注目は小野田正利

・大阪大学大学院人間科学

研究科教授ら新・学校保護

者関係研究会のメンバーを

中心に展開する大喜利シン

ポジウム。お題を出して、そ

れに回答する大喜利形式で

学校と保護者の間に起こる

問題の解決方法を考える。

実践的な対応を学ぶ。

2日目のシンポジウム

「学校の居心地のよさを求

めて」では、不登校を減ら

す活動をしている早川恵子

・都留文科大学講師らが子

どもにも教師にも居心地の

よい学校づくりについて話

し合う。大会長講演では大

震災後ずっと継続している

教師のためのメール相談や

被災地の子どもたち160

人を集めて実施した心のケ

アキャンプの実践報告とそ

こから見えてきたものにつ

いて語る。「東日本大震災

から学んだこと」をテーマ

にシンポジウムも開催。

「被災地でPTSD治療

を続けている小児科医の吉

岡春菜さんや福島大学総合

教育研究センターの中野明

徳教授らから心のケアで大

事なことは何かについて話

していただきます。黙とう

を挟みながら、この1年

間、現地で踏ん張ってきた

様々な実践を報告できれば

と願っています」

「学校の居心地のよさ」を考える 震災から学んだ教訓や実践を報告

講演は3題。苦情・クレ

ム対応アドバイザーの関根

真一氏は保護者のクレーム

にどう対応したらよいかに

ついて話す。院内学級教諭

の副島賢和氏は子どもを支

援するということとはどうい

うことか、本当の教育とは

何かを語る。精神科医でも

ある吉川武彦・清泉女学院

大学学長は教師のメンタル

ヘルスについて講演する。

ワークショップは2題。

保護者対応と危機管理をテ

ーマにロールプレイを交え